



# 2023年3月期 第2四半期 決算説明資料

2022年11月28日 株式会社ヤシマキザイ

( 東証スタンダード市場 証券コード:7677 )

説明会会場：公益社団法人日本証券アナリスト協会 第3セミナールーム

**YASHIMA**

## 株式会社ヤシマキザイとは

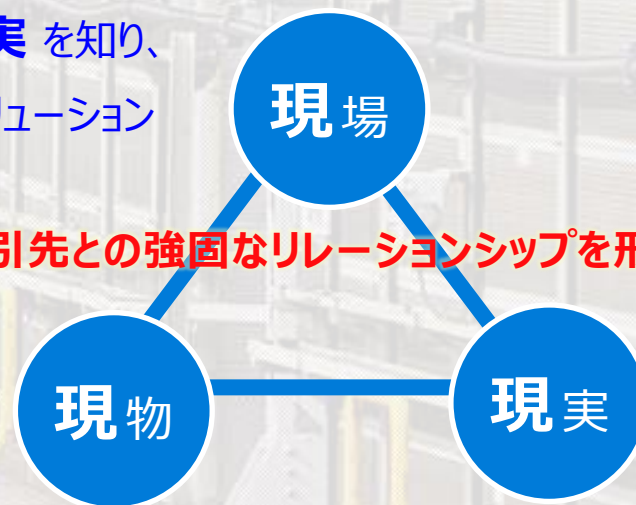
鉄道業界を主な市場として、商材やサービスを提供する商社です

3現主義を基軸に、鉄道業界で重要なポジションを確立しています

3現主義とは 10-500

顧客の **現場** に足を運び、**現物** に触れ、**現実** を知り、  
顧客のニーズをくみあげ、仕入先に展開し、ソリューション  
を組み立てることを意図しています。

取引先との強固なリレーションシップを形成



1. 2023年3月期 連結第2四半期決算概況 P. 4
2. 2023年3月期 連結通期業績・配当予想 P.12
3. 2022年3月期～2024年3月期 P.20  
中期経営計画と今期の取組み
4. トピックス P.27
5. ご参考資料 P.34

【ご注意事項】

本資料で記述している将来予測および業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため様々な要因の変化により、実際の業績は記述している将来見通しとは、大きく異なる可能性があります。



# 1. 2023年3月期 連結第2四半期 決算概況

# ① 貸借対照表（連結）

【連結第2四半期決算概況】

YASHIMA

- 販売業績の減少も、売掛入金が買掛支払に先行したため現預金が増加、また営業未収入金・未払い金が共に増加したため、流動資産と流動負債が増加
- 現預金は、前年同期比で38%増加の6,654百万円となり、当座比率は135%、流動比率160%と、財務状況は良好

金額単位 (百万円)	20/9末	21/9末	22/9末	前年同期増減	前年同期比
【資産の部】					
流動資産	17,314	15,821	20,141	+4,319	+27.3%
（うち、現預金）	(7,000)	(4,826)	(6,654)	(+1,828)	(+37.9%)
固定資産	3,037	3,179	3,010	▲169	▲5.3%
資産合計	20,352	19,001	23,152	+4,150	+21.8%
【負債の部】					
流動負債	10,685	8,888	12,586	+3,697	+41.6%
固定負債	935	1,084	1,142	+57	+5.3%
負債合計	11,620	9,973	13,728	+3,755	+37.7%
【純資産の部】					
株主資本	8,525	8,526	8,734	+208	+2.4%
その他の包括利益累計額	205	502	689	+187	+37.3%
純資産合計	8,731	9,028	9,423	+395	+4.4%
負債純資産合計	20,352	19,001	23,152	+4,150	+21.8%

(参考) 当座比率 (当座資産÷流動負債) 134% → 135%

(参考) 流動比率 (流動資産÷流動負債) 153% → 160%

## ② キャッシュ・フロー計算書（連結）【連結第2四半期決算概況】

- 営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権増加や仕入債務減少により減少
- 投資活動によるキャッシュ・フローは金銭信託の償還等により増加
- 財務活動によるキャッシュ・フローは配当金支払による減少  
（配当金額は前期と同水準ながら、自己株式売却による収入10百万円が加算）

金額単位 (百万円)	20/9 累計実績	21/9 累計実績	22/9 累計実績
売上債権の増減額（▲は増加）	3,062	264	2,413
棚卸資産の増減額（▲は増加）	▲ 438	▲ 371	▲ 293
仕入債務の増減額（▲は減少）	▲ 4,350	▲ 3,304	▲ 3,058
その他	208	▲ 475	▲ 210
営業C／F	▲ 1,517	▲ 3,887	▲ 1,148
投資C／F	▲ 9	48	527
財務C／F	▲ 70	▲ 70	▲ 60
換算差額	▲ 20	87	92
現預金の増減額（▲は減少）	▲ 1,618	▲ 3,822	▲ 589
現預金及び現金同等物の期末残高	7,178	5,504	6,832

## ■ 売上高は前期から減少（収益認識基準適用による影響額▲751百万円）

【鉄道事業】主要顧客である鉄道事業者の業績は増収増益となるも、半導体等の部品供給不足を受け、手配の長期化や、一部案件で新車製造工程の見直しによる納期の延期等もあり、減収

【一般事業】電子部品等の供給に不透明感はありながらも、一部販売先や業界の旺盛な需要に支えられ、堅調に推移

## ■ 利益面は売上総利益が増加も、販管費の増加を受けて減益

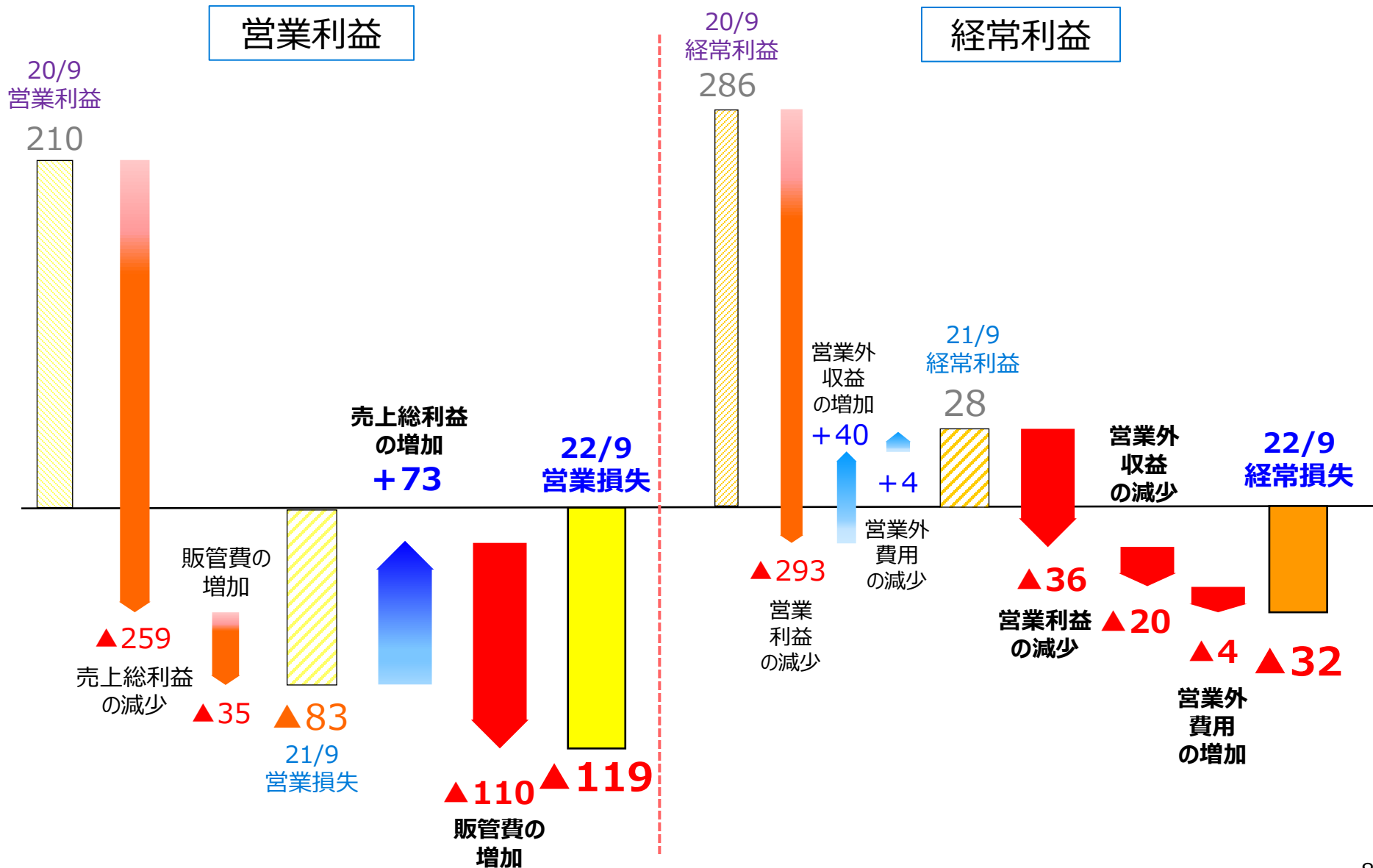
売上総利益が計上案件の利益率の違いから前期比+4.8%と向上も、コロナ禍で抑制された営業活動の再開もあって営業経費が増加したこともあり、販売費および一般管理費は前期比+6.7%となり、営業利益以下の段階利益は減益

金額単位 (百万円)	20/9 累計実績	21/9 累計実績	22/9 累計実績	前年 同期増減	前年 同期比
売上高	15,444	13,237	11,586	▲1,651	▲12.5%
(旧基準)	15,444	14,004	12,337	▲1,667	▲11.9%
鉄道事業	14,160	11,816	10,068	▲1,748	▲14.8%
一般事業	1,284	1,421	1,517	+97	+6.9%
売上総利益	1,807	1,548	1,622	+73	+4.8%
販売費及び一般管理費	1,597	1,632	1,741	+110	+6.7%
営業利益	210	-83	-119	▲36	-
営業外収益	85	125	105	▲20	▲16.1%
営業外費用	9	14	18	+4	+34.0%
経常利益	286	28	-32	▲61	▲215.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	189	-11	-57	▲45	-



■ 営業利益・経常利益の減少要因

(金額 百万円)

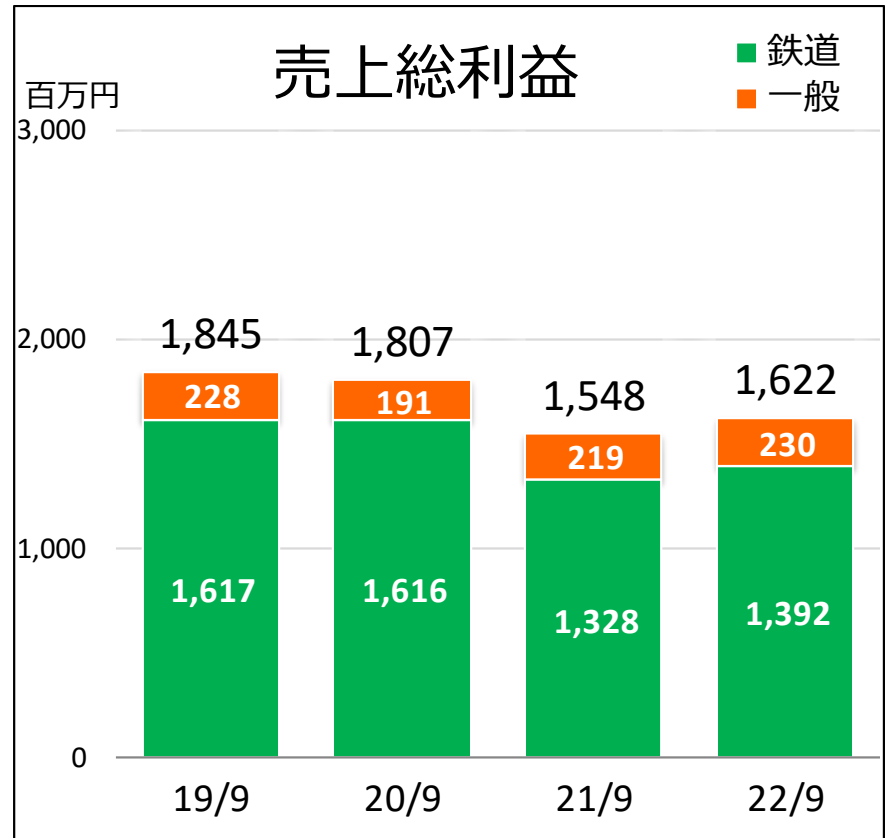
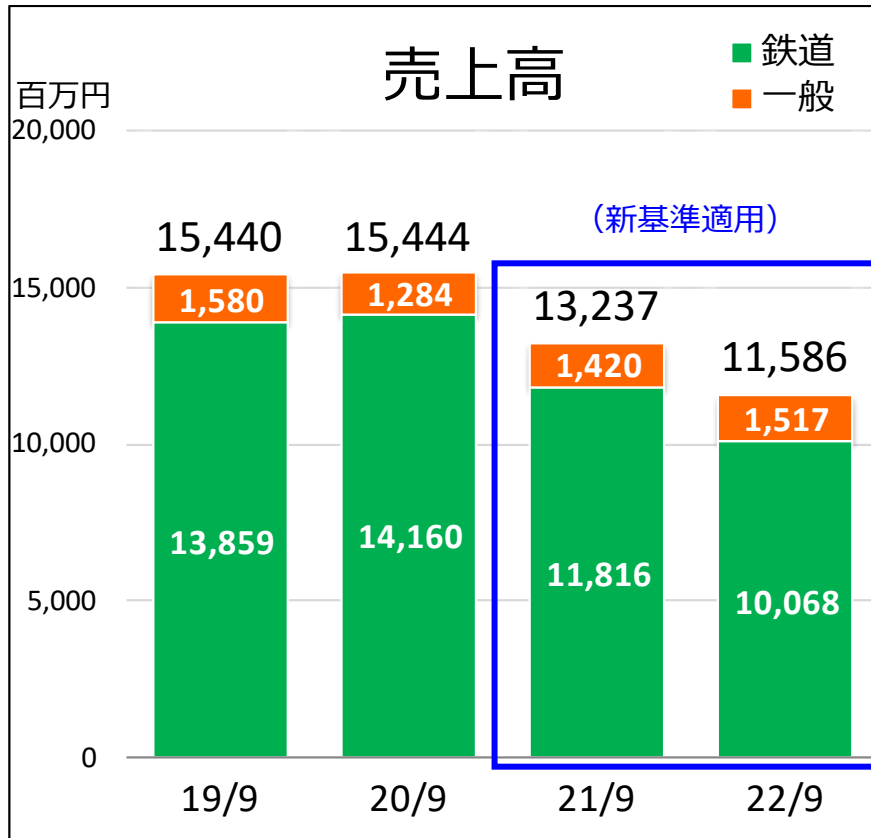


# ⑤ セグメント別業績の推移

【連結第2四半期決算概況】

- ・ 鉄道事業 鉄道事業者や車両メーカー等に車体用品、電気用品等を販売
- ・ 一般事業 鉄道業界以外の産業機器メーカー等に電子部品等を販売

セグメント別 売上高・売上総利益推移



**売上高は** 鉄道事業 ▲14.8% 減少      一般事業 +6.9% 増加  
**売上総利益は** 鉄道事業 +4.8% 増加      一般事業 +5.2% 増加

# ⑥ 鉄道事業の売上高

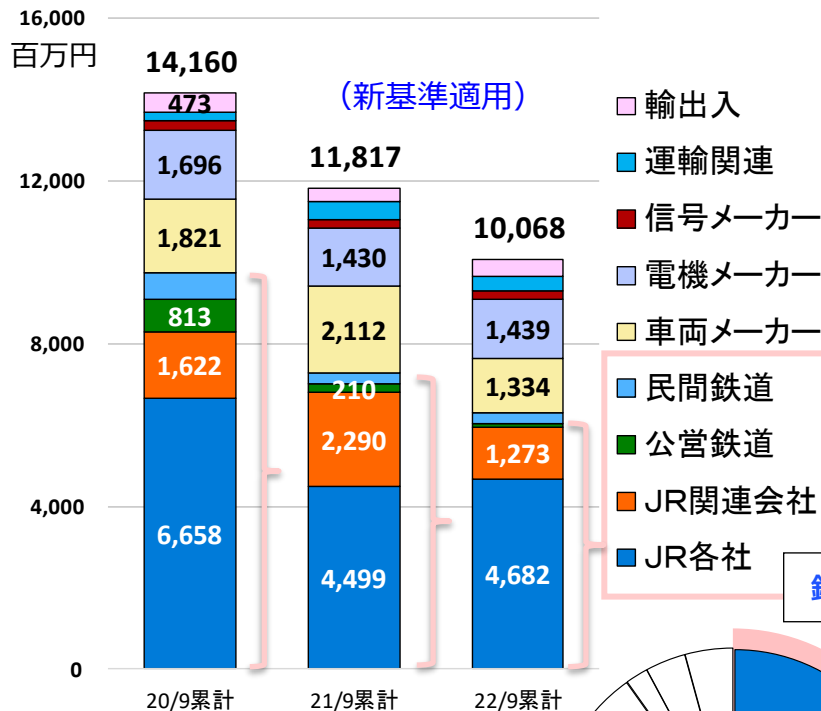
【連結第2四半期決算概況】

■ 業界別では、鉄道事業者・車両メーカー向けの販売が減少

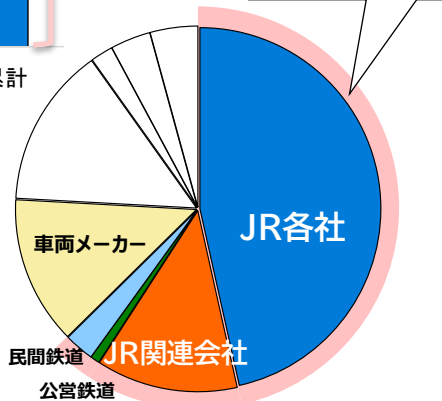
(収益認識基準適用による影響額 約▲683百万円)

■ 商材別では、電気用品・設備品の販売が減少

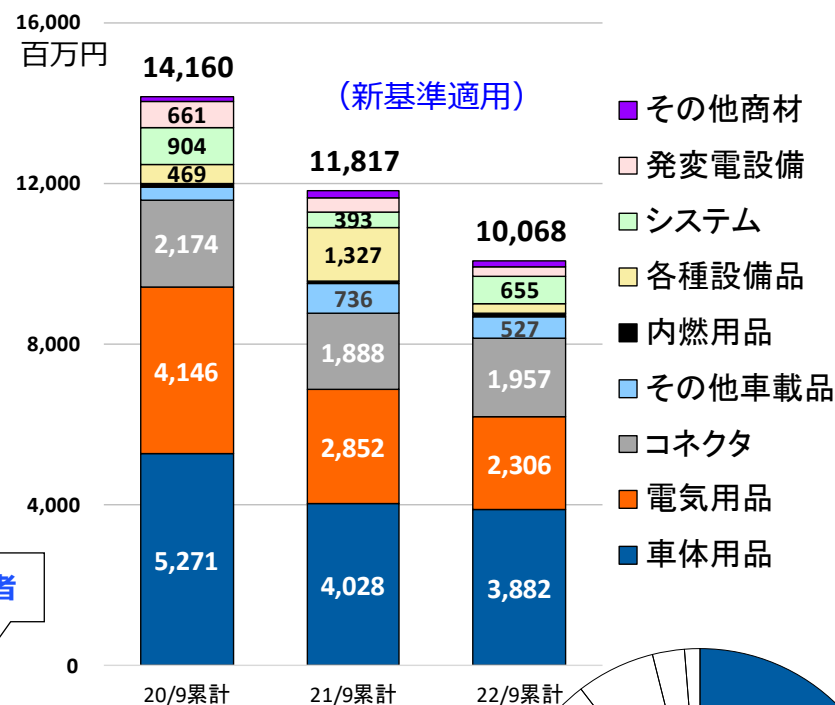
業界別 売上高



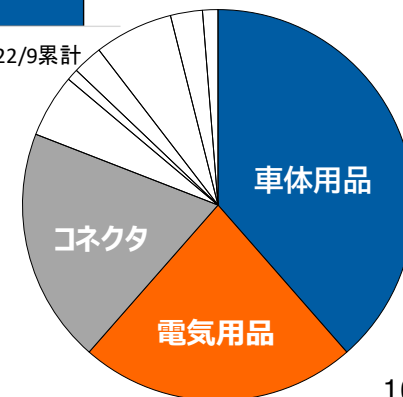
22/9 構成比



商材別 売上高



22/9 構成比



# ⑦ 一般事業の売上高

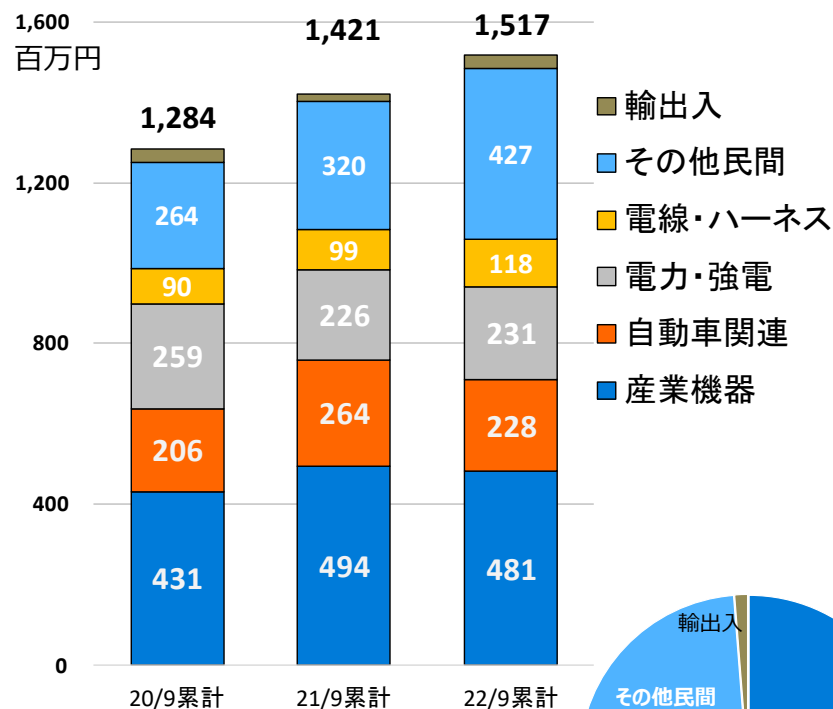
【連結第2四半期決算概況】

- 業界別では、自動車業界向けは低迷も、旺盛な電子部品需要等に支えられて増収

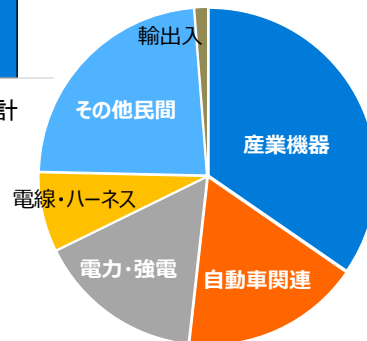
(収益認識基準適用による影響額 約▲68百万円)

- 商材別では、主力のコネクタやその他のファインバブル生成装置等の販売で好調

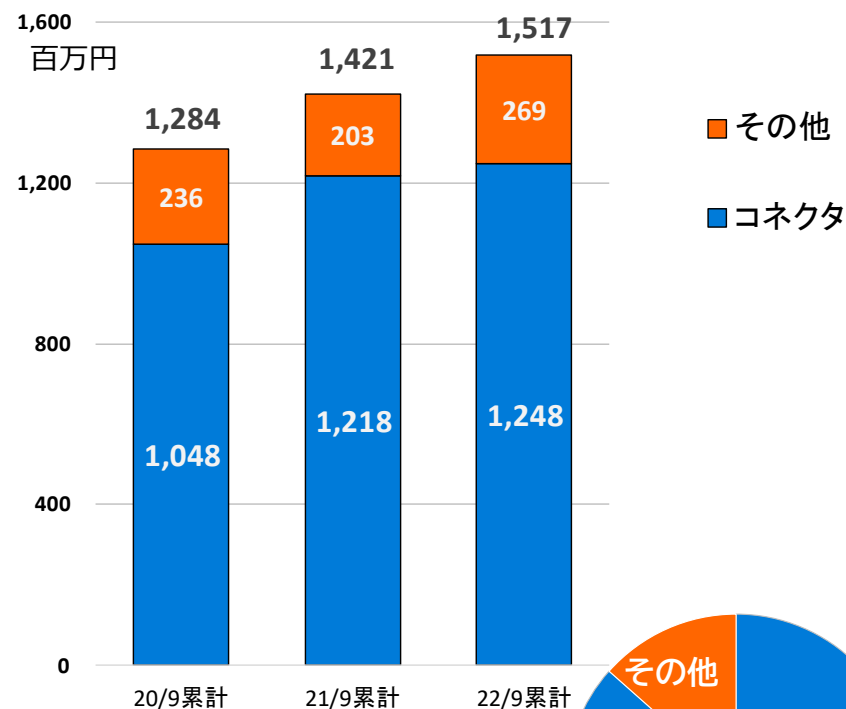
業界別 売上高



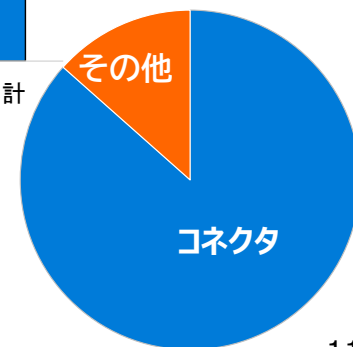
22/9  
構成比



商材別 売上高



22/9  
構成比





## 2. 2023年3月期 通期業績・配当予想

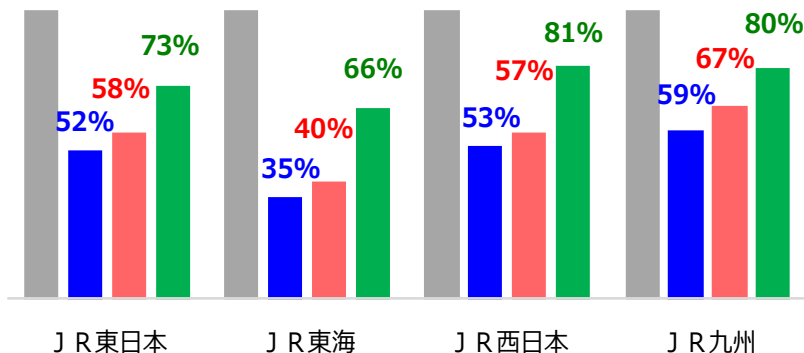
## 上場JR4社の状況

- 当社の売上の60%超が鉄道事業者向けで、その大半はJR東日本・西日本・東海が占める
- コロナ以前の2019/9との比較では2020/9を底として、行動制限等の緩和による鉄道利用者数の回復に伴い、上場JR4社の売上高・営業収益は70~80%水準まで回復  
ただし、リモートワークの普及等、生活様式の変化もあり、今後も鉄道利用者数はコロナ以前の水準には戻らないことが見込まれる

### 上場JR各社（連結）売上高・営業収益

19/9 実績を100とする

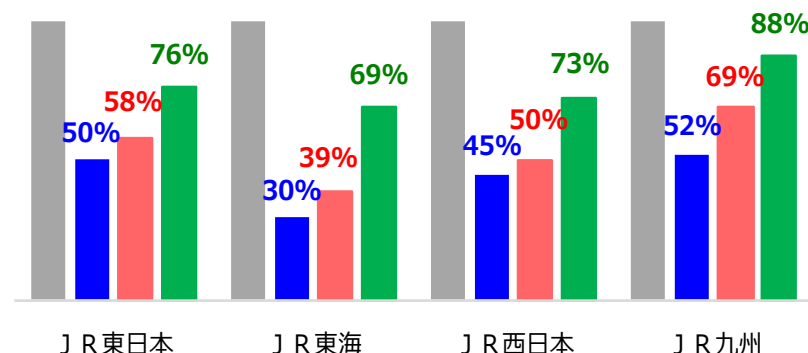
■ 19/9 実績  
■ 20/9 実績  
■ 21/9 実績  
■ 22/9 実績



### 上場JR各社（単体）売上高・営業収益

19/9 実績を100とする

■ 19/9 実績  
■ 20/9 実績  
■ 21/9 実績  
■ 22/9 実績



## 上場主要鉄道事業者の連結業績推移

- 主要鉄道事業者の業績も、概ね上場JR4社と同様の傾向にある

単位：億円 %表示は対前年同期増減率

	2019/9累計		2020/9累計		2021/9累計		2022/9累計	
	売上高	営業収益	売上高	営業収益	売上高	営業収益	売上高	営業収益
東日本旅客鉄道	15,188	2.1%	7,872	-48.2%	8,778	11.5%	11,150	27.0%
西日本旅客鉄道	7,620	3.4%	4,023	※1	4,368	8.6%	6,167	41.2%
東海旅客鉄道	9,556	4.1%	3,378	-64.6%	3,869	14.5%	6,341	63.9%
九州旅客鉄道	2,128	1.3%	1,245	-41.5%	1,416	13.7%	1,701	20.2%
東武鉄道	3,349	19.0%	2,296	-31.4%	2,338	1.8%	2,854	22.1%
西武HD	2,946	4.0%	1,548	-47.4%	1,949	25.8%	2,125	9.1%
京成電鉄	1,380	6.2%	995	-27.9%	1,041	4.7%	1,190	14.3%
京王電鉄	2,178	0.1%	1,382	-36.5%	1,378	-0.3%	1,588	15.2%
小田急電鉄	2,617	1.7%	1,676	-36.0%	1,747	※1	1,899	8.7%
東急	5,801	1.4%	4,340	-25.2%	4,430	2.1%	4,346	-1.9%
京浜急行電鉄	1,652	9.4%	1,030	-37.7%	1,061	※1	1,203	13.4%
相鉄HD	1,391	4.8%	1,087	-21.9%	1,043	※1	1,150	10.3%
名古屋鉄道	3,161	6.9%	2,269	-28.2%	2,242	-1.2%	2,631	17.3%
近鉄グループHD	6,134	2.0%	2,819	-54.0%	2,916	※1	6,230	113.6%
南海電気鉄道	1,168	3.6%	909	-22.1%	916	※1	1,082	18.1%
京阪HD	1,652	8.1%	1,082	-34.5%	1,185	※1	1,231	3.9%
阪急阪神HD	4,107	9.6%	2,410	-41.3%	3,108	※1	4,671	50.3%
西日本鉄道	1,904	1.8%	1,512	-20.6%	1,877	24.2%	2,535	35.0%

※1 新収益認識基準適用後の数値のため、前期比は記載していない

## 【鉄道事業者各社の状況】

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は予断を許さないが、行動制限緩和による旅客需要の回復により、多くの鉄道事業者で業績が回復基調に入る

しかし、過去の業績悪化局面では、コスト削減のため、不急の設備投資や各種修繕の計画見直しや先送り等で対応

ただし、安全確保に係る費用や、コスト削減につながる新規投資には意欲的

⇒鉄道事業者の業績回復により、今後は設備投資需要の増大、先送りされた修繕等の実施等が見込まれる

## 上場 J R 4 社の修繕費・設備投資の状況

### 【 J R 各社の修繕・設備投資意欲の向上】

新型コロナウイルスの感染症に対する行動制限等が緩和され、2023/3期は各社とも営業損益が黒字に転換する予想を公表

⇒2022/3期で抑制されていた各種修繕や設備投資も回復傾向

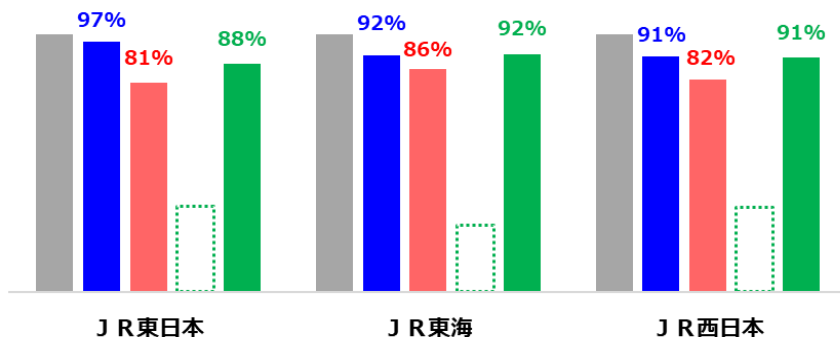
### 【 J R 各社の予算執行状況】

予算の執行状況については、 J R 各社ともに下期偏重傾向があり、①の修繕費については、上期実績は通期予想金額の28~37%に留まる

⇒当社業績についても、下期に偏重する傾向

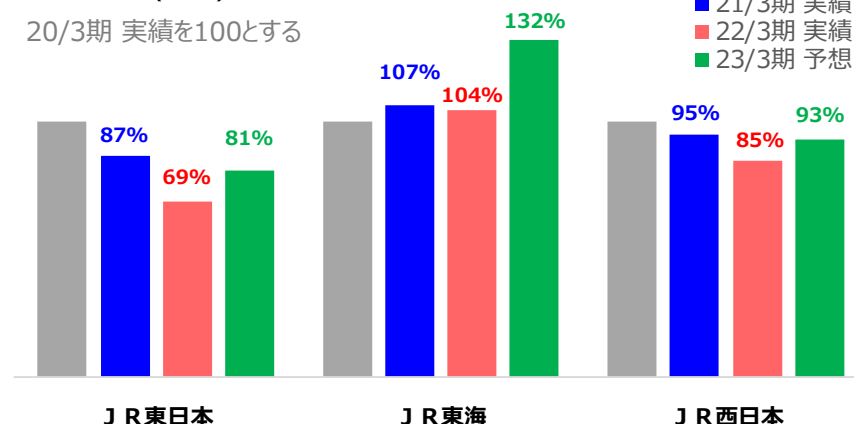
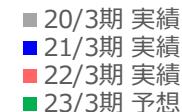
①上場 J R 各社(単体) 修繕費

20/3期 実績を100とする



②上場 J R 各社(単体) 設備投資

20/3期 実績を100とする



### 【鉄道事業】

大手民間鉄道事業者も 2023/3期 は増収増益の予想を相次いで公表しており、 J R 各社の様に各種修繕や設備投資を増加させることが期待される

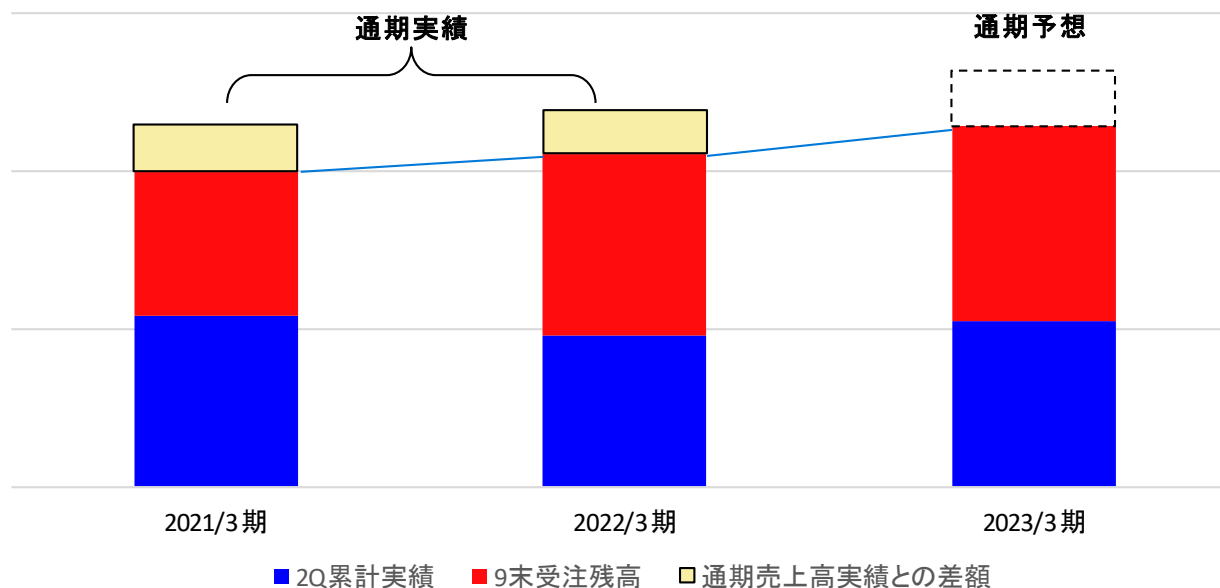
設備投資額の2022/9累計実績金額については、各社非公開



## 【売上高】

- ・ 主要顧客である鉄道事業者の設備投資意欲の回復傾向を受け、当社の受注環境も好転
  - ・ 第2四半期時点の売上高実績に当期納期の受注残高を加算した金額水準は直近3期で最高水準（総額表示ベース※）
- ⇒過去の傾向から、今後の受注分も含めれば、現時点では通期業績予想数値達成に十分な水準だが、原材料不足による商材の流通動向等によっては受注案件の売上計上が来期にずれ込む恐れもあり

通期実績(予想)に対する9月末時点の売上実績+受注残高  
(総額表示ベース)



※会計上の売上高数値は収益認識会計基準により純額（ネット）表示で開示しておりますが、受注等の管理については代理人取引案件等も含めて総額（総取引代金）表示ベースで行っております。

## 【売上総利益】

2023/3期はコロナ以前の水準までは届かないながらも、売上高は前期比で増収

⇒売上高の増加に伴い、売上総利益も増加

コロナ前の2020/3期を100%とした場合、**2023/3期は98%**の水準まで回復する予想

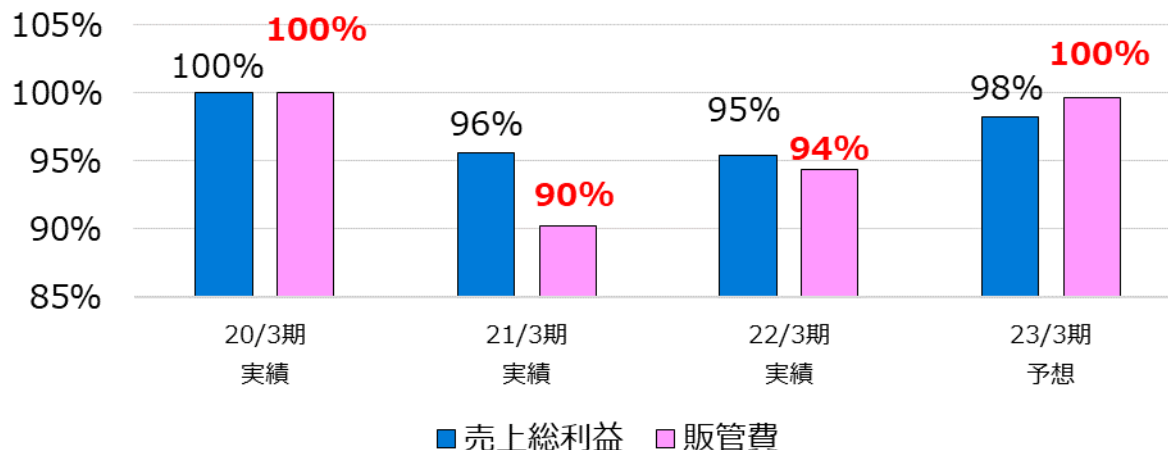
## 【販売費及び一般管理費】

新型コロナウイルス感染症に対する行動制限の緩和を受けて、コロナ禍の中で抑えていた営業活動を再開し、中期経営計画の達成に向けた取組みを強化

⇒販売費及び一般管理費は売上総利益の増加以上に増加

コロナ前の2020/3期を100%とした場合、**2023/3期は100%**の水準となる予想

売上総利益・販管費推移



- 主要顧客である鉄道事業者の増収増益予想を受け、設備投資等の発注計画は回復傾向にあり、当社グループの受注環境は好転も、商材の供給状況に注視が必要
- 売上高は増収となり、売上総利益も前期比でプラスを予想
- 販売費及び一般管理費は、経済活動や営業活動の再開により、前期比でプラスを予想
- 販売費及び一般管理費の増加が売上総利益の増加を上回るため、営業利益以下の段階利益は前期比で減益となる予想

金額単位 (百万円)	2022/3期 実績	2023/3期 予想	前期比
売上高	28,293	<b>31,581</b>	+11.6%
営業利益	372	<b>294</b>	▲20.8%
経常利益	549	<b>413</b>	▲24.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	301	<b>265</b>	▲12.1%

記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。  
また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

当社は、株主に対する利益還元と内部留保の充実や、収益性、成長性、企業体質の強化等を総合的に勘案して、安定的な配当の継続維持を基本方針としております

	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期 (予想)
1株当たり年間配当額	25.00円	25.00円	25.00円	25.00円
1株当たり当期純利益	89.68円	98.49円	105.97円	93.07円
配当金総額（合計）	70百万円	70百万円	71百万円	—
配当性向（連結）	27.9%	25.4%	23.8%	26.8%

2023/3期の当期純利益は前期から減少する予想ですが、安定継続配当の面から  
**1株当たり年間配当額は25.00円とする方針です**



### 3. 2022年3月期～2024年3月期 中期経営計画と今期の取組み

## 基本目標

ポストコロナに向け、安定成長軌道への回帰

事業環境の変化を見据え、新たな企業価値・存在価値の創出

2024年3月期 ROE 5%

## 基本方針

### 1 鉄道セグメント

既存事業基盤の強化による  
持続的成長の実現



事業領域拡大  
高付加価値サービスの提供

### 2 一般セグメント

収益性向上、投下リソースに見合う採算を確保できる体制構築

### 3 海外事業

グローバル市場の開拓・ODA 鉄道インフラ整備案件への参画促進

## ② 数値目標（連結）

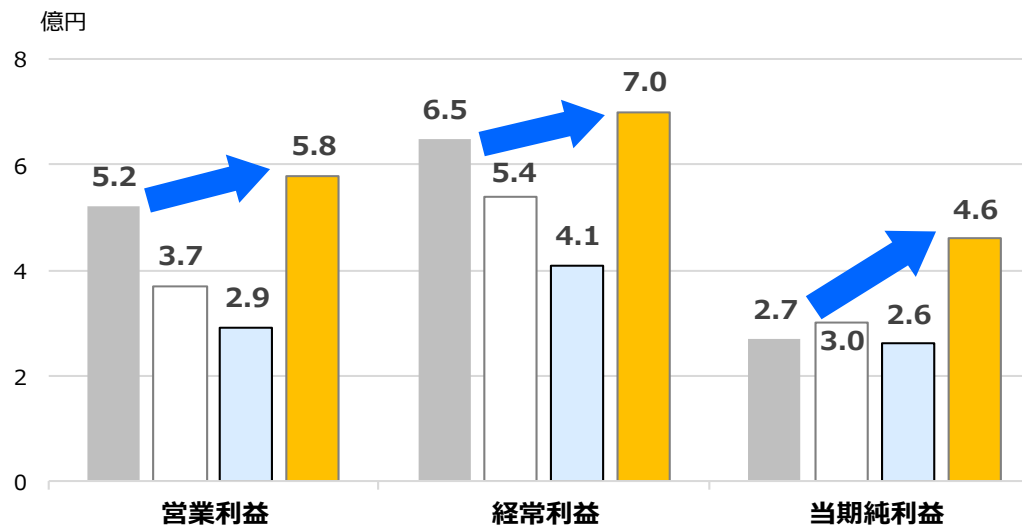
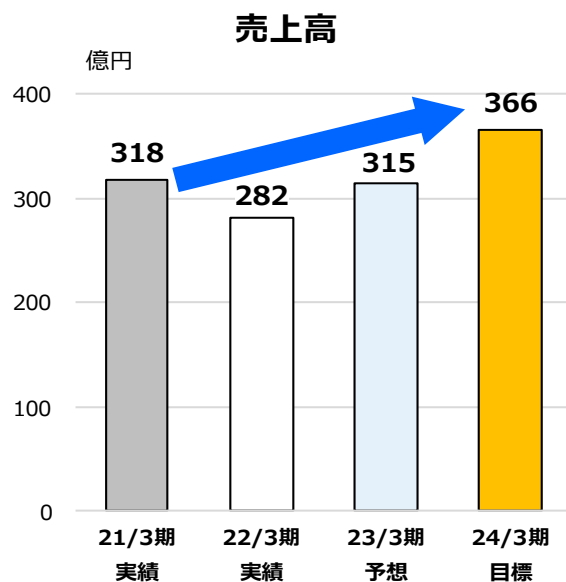
【中期経営計画】

YASHIMA

- 2022/3期より「収益認識に関する会計基準」を適用したため、売上高の目標数値を修正

金額単位 百万円

	21/3期 実績	22/3期 実績	23/3期 予想	24/3期 目標	21/3期 比較
<b>売上高</b>	—	28,293	31,581	<b>36,649</b>	—
(旧基準)	31,828	30,739	—	38,761	+21.8%
<b>営業利益</b>	526	372	294	<b>586</b>	+11.4%
<b>経常利益</b>	653	549	413	<b>705</b>	+8.0%
<b>当期純利益</b>	279	301	265	<b>462</b>	+65.6%
<b>ROE</b>	3.2%	3.3%		<b>5.0%</b>	



### 車両回りの既存事業の強化

5月の『鉄道技術展・大阪』、9月の『イトランス2022』（国際鉄道技術専門見本市）に参加  
既存仕入先との関係強化の他、展示会での情報収集を通じて新規仕入先や新規商材の開拓を進める

### 検修設備・保線等の車両周辺領域への深耕

#### 保線用商材の販売強化

- ・特殊保線用車両の国内メーカーと協力して営業活動を強化、各地の鉄道事業者に提案開始
- ・スイス・マティサ社の日本正規代理店として「マルチプル・タイタンパー(※)」の拡販に努め、今期は1台売上



※マルチプル・タイタンパー（略称マルタイ）は、多頭型突き固め装置を装備する保線用車両で、歪んだ線路を修正するための車両です。営業列車が往来する線路は徐々に状態が悪化してしまう為、元に戻す必要があります。そこで、元の状態に戻すために欠かせないのがマルタイです。

「軌間・水準・通り・高低・平面性」の5つの数値が悪化すると、乗り心地が悪くなり、最悪の場合、脱線にもつながりかねません。クランプを用いてレールを持ち上げ、かつガイディングコンピューター（CATT）により、線形を計算し、枕木の下に砂利をタンピングすることにより、レールを正常の位置に戻します。最終的には、作業後に、5m正矢弦の計測輪により、仕上がり線形を計測し記録いたします。レールの持ち上げ～タンピング（突き固め）・仕上がり検測の一連の流れをスピーディーにできるのがマルタイです。

### 顧客のニーズ・課題に合わせたビジネスモデル構築

#### DXやIoTによる省力化

- ・AIの活用により、顧客の作業負担を軽減する商材等を提案（ドライブレコーダーの映像から障害物を自動検知等）  
⇒鉄道事業者の実際の路線で実証実験開始へ向けた活動中
- ・並行して技術的知識や経験向上のため、メーカーへの人員派遣



### 公民鉄事業者への販売強化

#### 大阪モノレールのイベントに協賛し、関係強化

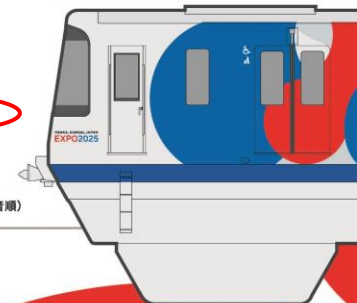
大阪・関西万博の共創チャレンジの一環として、大阪モノレールが企画したラッピング列車「EXPO TRAIN 2025 大阪モノレール号」に協賛して実現、2022年11月7日の出発式に参加

今後、万博を見据えた路線の延伸や分岐工事等の工事案件への参画に向けて取り組みを強化中



#### このラッピング列車は28の企業・団体の協賛金により実現しました **EXPO TRAIN 2025 大阪モノレール号**

- |                         |                       |
|-------------------------|-----------------------|
| ● 飯田グループホールディングス株式会社    | ● 株式会社トニーコンサルタント      |
| ● 株式会社伊藤園               | ● 日本信号株式会社            |
| ● 鹿島建設株式会社              | ● 日本電設工業株式会社          |
| ● 関西電力株式会社              | ● 学校法人梅花学園            |
| ● 株式会社ガンバ大阪             | ● 万博記念公園マネジメント・パートナーズ |
| ● 近畿中央ヤクルト販売株式会社        | ● 株式会社日立製作所           |
| ● コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社  | ● 株式会社三井住友銀行          |
| ● サントリービバレッジソリューション株式会社 | ● 三井不動産株式会社           |
| ● 株式会社JTB               | ● 株式会社三菱UFJ銀行         |
| ● ジョルダン株式会社             | ● 株式会社ヤシマキサイ          |
| ● 住友商事株式会社              | ● ハナ化成工業株式会社          |
| ● Daigasエナジー株式会社        | ● コアSAM&B株式会社         |
| ● 中央復建コンサルタンツ株式会社       | ● 株式会社りそな銀行           |
| ● 東芝インフラシステムズ株式会社       | ● 学校法人立命館 (五十音順)      |



- 特別協力**
- 株式会社ミズカミ (車体ラッピング制作取付)
  - 株式会社ロブ (イメージソング・ビデオ製作)

#### 工事案件への対応力強化

① 公民鉄事業者に携わる人員の増強、管理技術者の養成・獲得により、機械器具設置工事業の特定認可の取得

⇒ 設備機器の販売に加えて設置工事の施工までをトータルで取り扱うことで、受注の増加を図る

② 工事会社の技術継承難、作業員不足や工事会社の業務平準化の必要性を背景に、当社のネットワーク(全国鉄道事業者・工事会社との関係)を活かして鉄道事業者と工事会社の需給を取り持つ

## 業務効率化・生産性の向上

### 窓口の集約化

- ①小口客先を二次店経由に集約し、二次店とのやり取りはRPAで自動化することでコスト削減と事務工数削減
- ②組織変更による、人的リソースの適正配置と業務効率化

### 道路インフラ業界への注力

- ①専任メンバーを定め、全国的な営業活動を展開
- ②採用実績のある商材を横展開するとともに、ベースとなるビジネスの構築
- ③ハイウェイテクノフェア（高速道路の建設管理技術に焦点をあてた展示会）に参加し、認知度向上と拡販を図る



移動電源車



落雷抑制型避雷針



電気赤外線ヒーター



作業現場の遠隔サポートツール

現地対応力の強化

ODA 案件への注力

ASEAN圏のODA案件への参画を目指し、インド、バングラデシュ、フィリピンを中心に、現地で協力会社を獲得、ゼネコン等とも組むことで入札の対応力を強化

## 国土交通省インフラシステム海外展開行動計画2022 (参考) 主なプロジェクト より抜粋

### 英国

- HS2 (High Speed 2) 高速鉄道計画

### アラブ首長国連邦

- アブダビメトロ整備事業

### エジプト

- カイロ地下鉄4号線第一期整備計画

### ミャンマー

(今後の事態を注視し、検討)

- ヤンゴン～マンダレー鉄道整備事業
- ヤンゴン都市鉄道整備事業

### 米国

- ワシントンDC～ボルティモア間の超電導リニア計画
- テキサス高速鉄道計画
- カリフォルニア高速鉄道計画

### インド

- ムンバイ～アーメダバード間高速鉄道計画
- チェンナイ地下鉄建設計画 (フェーズ2)

### バングラデシュ

- ダッカ都市交通整備事業 (1号線)
- ダッカ都市交通整備事業 (5号線北路線)

### タイ

- バンコク～チェンマイ間高速鉄道整備事業
- EEC高速鉄道整備事業
- 貨物鉄道サービス改善事業
- バンコク都市鉄道パープルライン延伸事業
- バンコク都市鉄道レッドライン延伸事業

### インドネシア

- ジャカルタ都市高速鉄道事業 (フェーズ2)
- ジャカルタ都市高速鉄道東西線事業
- ジャワ北幹線鉄道準高速化事業
- ジャカルタ首都圏鉄道輸送能力増強事業

### ベトナム

- 南北高速鉄道整備事業
- ハノイ市都市鉄道1号線及び2号線整備事業
- ホーチミン市都市鉄道3A号線整備事業

### フィリピン

- 南北通勤鉄道事業
- 南北通勤鉄道延伸事業
- マニラ首都圏地下鉄事業



## 4. トピックス

## 1. 鉄道ひろば 開設

2022年12月1日、ソフトバンク株式会社との共同プロジェクトとして、  
出品型鉄道専門フリーマーケットサイト「鉄道ひろば」を開設します。

主な出品元は、各鉄道事業者を想定しており、  
鉄道事業者が保有する有形・無形の鉄道関連資産の  
流通を促すことで、マーケットの拡大を図ります。

⇒中小鉄道事業者の収益向上や、沿線地域の活性化に貢献



「鉄道ひろば」

URL : <http://www.tetuhiro.com/>

開設日 : 2022年12月1日(木)

<出品例>

中古鉄道用品・鉄道各種イベント・鉄道グッズ・鉄道模型

## 2. ヤシマエクスプレス 開設

利便性向上のため、2022年9月1日にお客様専用のWebカタログサイト『ヤシマエクスプレス』を開設いたしました。

お客様毎に発行するID・PASSから、当社取扱製品のカタログ閲覧や見積依頼・問い合わせが可能となりました。

Webカタログ

ヤシマエクスプレス



競合メーカーの製品を仕様等の確認をしつつ比較検討できるように、順次掲載商品を拡大していく予定です。

### 3. イノトランス2022への出展

鉄道業界への拡販活動と新規仕入先の選定、情報収集等の一環として、2022年9月20日（火）～23日（金）に開催された『イノトランス2022』に出展しました。



InnoTrans/国際鉄道技術専門見本市は、2年毎にドイツベルリンで開催される鉄道・モビリティ業界における世界屈指の展示会です。  
鉄道技術のほか、鉄道インフラ、インテリア、公共交通、トンネル建設の5つのテーマ別の展示で世界中から3,000社以上が出展しています。



#### 【出展品目】

- ・当社の参画した車両案件の紹介
- ・鉄道車両用製品
- ・車両用基地設備品
- ・I G P

（ガラスとポリカーボネートによる車両用複層ユニット窓）

- ・クリアヒート

（発熱式ポリカーボネートによる車両用窓・信号カバー）

## 4. ハイウェイテクノフェア2022への出展

道路インフラ業界への拡販活動の一環として、2022年11月24日（木）～25日（金）に開催された『ハイウェイテクノフェア2022』に出展しました。

ハイウェイテクノフェアは、公益財団法人 高速道路調査会が主催し、高速道路の建設・管理技術の普及や活用を促進するとともに、高速道路事業について広くお客様や社会の理解を得ることを目的に、「高速道路の建設・管理技術」に焦点をあてて開催される展示会です。



### 【出展品目】

- ・落雷抑制型避雷針
- ・赤外線融雪装置
- ・火災検知ソリューション
- ・除菌クリーナー
- ・移動電源車            他



オンライン展示は、2022年12月14日（水）まで  
<https://visitor.htf2022.sonomama-series.com/login>  
 から参加できます。（メールアドレス等の登録が必要）



## 5. 新交通システム開発のスポンサー活動

当社は、**Zip Infrastructure**（ジップ・インフラストラクチャー）**株式会社**  
（本社：神奈川県秦野市、代表取締役：須知高匡、以下 Zip Infrastructure 社）  
が取り組む**自走式ロープウェイ「Zippar**（ジッパー）」の**開発を支援**し、次世代公共交通の実現に  
向けて取り組んでいます。

Zip Infrastructure 社は、神奈川県秦野市で開発を進めておりますが、当社も実験線用の  
機材等を提供しております。（右下写真は実験線で使用するロープウェイのキャビン）

「Zippar」はこれまでデッドスペースとなっていた道路上の空間を生かし、従来モノレールの半分の輸送量を、5分の1のコストと期間で建設可能な新しい交通システムです。これにより既存の交通インフラの隙間を埋め、渋滞緩和や街づくりに貢献していきます。

### <「Zippar」の主な特徴>

- ・低コスト：既存のモノレールに比べ、約1/5のコスト・期間で建設が可能
- ・自動運転：時間帯や路線など、旅客需要に応じて車両数の増減が可能
- ・自由設計：ロープとゴンドラが独立しているため、カーブや分岐に対応可能
- ・安全対策：ロープを2本とし、通常ロープウェイの1.5倍の風速まで運行可能

Zip Infrastructure社 ウェブサイト：

<https://zip-infra.co.jp/index.html>



**新型コロナウイルス感染症の影響は予断を許さず、当社を取り巻く環境も厳しい状況にありますが、当社はその活動を通じてステークホルダーの皆様、そして社会に役立てるように努めてまいります。**

**本日はご多忙中にも関わらず、決算説明会にご参加を頂きまして、ありがとうございました。**

**これからもヤシマキザイをよろしくお願い致します。**

**ご清聴、ありがとうございました。**

株式会社ヤシマキザイ

2022年11月28日 2023年3月期 第2四半期 決算説明会

(説明会会場：公益社団法人日本証券アナリスト協会 第3セミナールーム)

A blue-tinted photograph of a high-speed train (Shinkansen) on tracks. The train is white with a blue stripe and is moving towards the right. Overhead power lines and support structures are visible above the tracks. The background shows a residential area with houses and trees.

## 5. ご参考資料

# 会社概要

社名	株式会社ヤシマキザイ 【英文名】Yashima & Co.,Ltd.					
本社	東京都中央区日本橋兜町6番5号					
代表者	代表取締役社長 高田 一昭					
設立	1948年10月28日					
資本金	9,990万円					
従業員数	265名 (2022年3月末現在、連結)					
事業内容	鉄道関連製品と産業用電子部品の販売、メンテナンスサービスおよび輸出入					
連結子会社	名称	住所	資本金	事業内容	議決権の所有 (又は被所有)割合	関係内容
	ヤシマ物流 株式会社	東京都 中央区	40,000 千円	鉄道事業、 一般事業	100.0%	物流業務等の委託
	亜西瑪(上海) 貿易有限公司	中国 上海市	1,000 千US\$	鉄道事業、 一般事業	100.0%	商材の仕入・販売 借入債務の保証 役員の兼務 4名
※両社とも特定子会社 ※有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。						
海外拠点	デリー支店、ミャンマー支店、ハノイ駐在員事務所、ジャカルタ駐在員事務所、 マニラ駐在員事務所、ロンドン事務所、ムンバイ事務所 ■上海会社(現地法人)：上海・青島・深圳					

■ 1948年に設立、旧国鉄との取引から始まり70年、鉄道の発展に寄与し成長

## ヤシマキザイ主要商材



## JR・電車の歴史



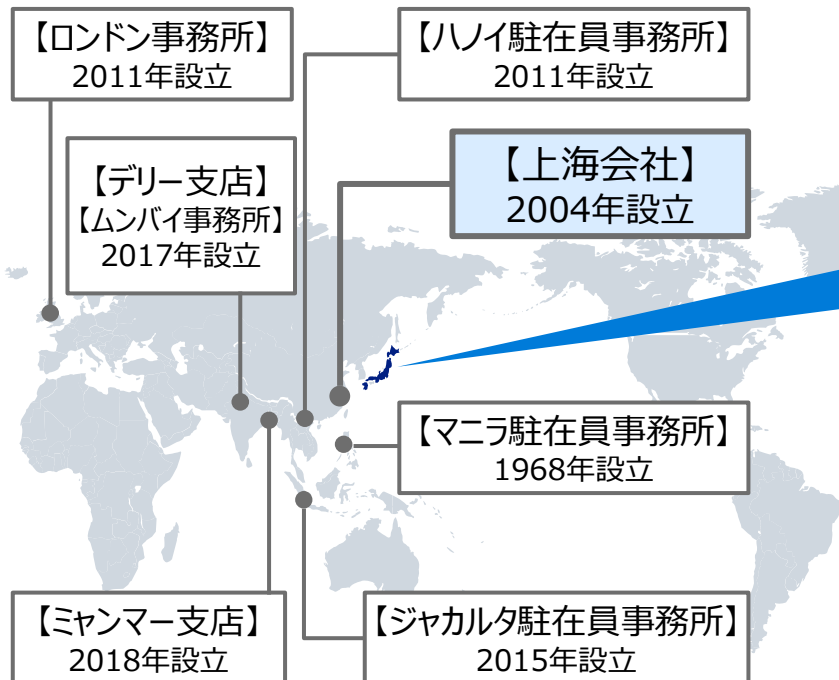
1948年10月設立



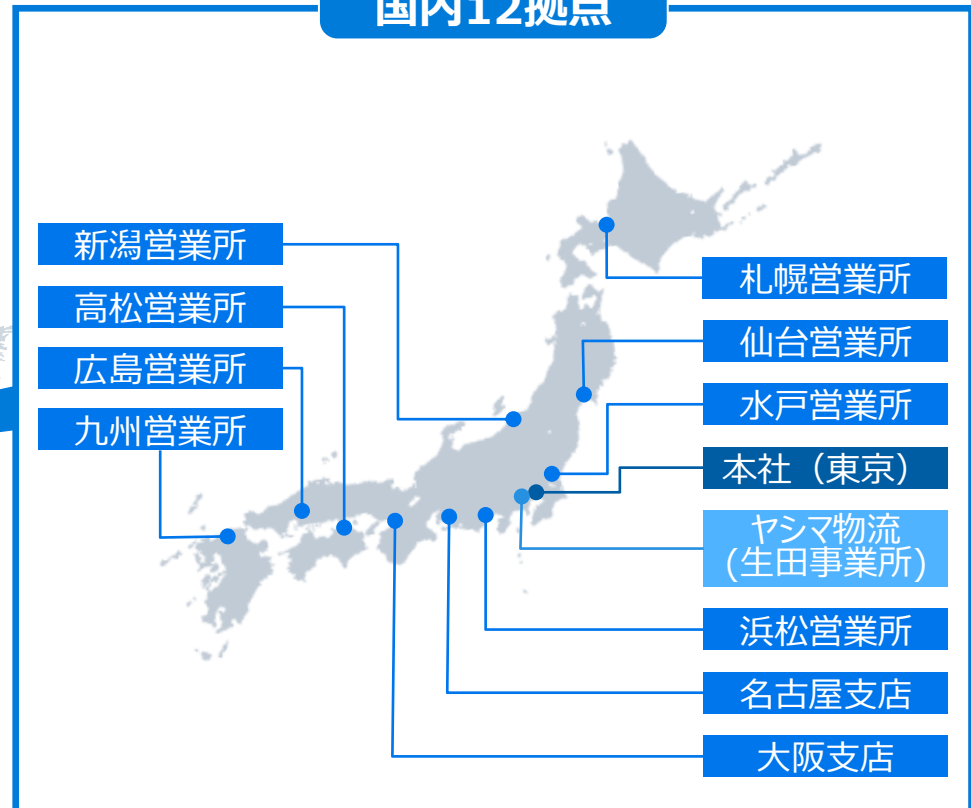
- 日本全国を網羅する12拠点に加え、海外への展開を進めています

## 海外8拠点

■ 連結子会社    □ 支店・駐在員事務所



## 国内12拠点



**YASHIMA**



東証スタンダード市場 証券コード：7677

株式会社ヤシマキザイ <https://www.yashima-co.co.jp/>

【お問い合わせ先】 経営企画室

TEL : 03-4218-0096

E-mail : contact-ir@yashima-co.co.jp